

2013年12月15日

ひまわりの家

第62号



西淀川区佃1-10-16

(Tel) 6474-8788 (fax) 6474-8796

(E-mail) enchi@himawaritsukuda.jp



共生ホームひまわりの家の開設から3年8ヶ月になりました

現在入居者は5名です。平均年令は93才、介護度も高くなってきました。

最後までこのひまわりの家で過ごしていただきたいと思います。

デイサービスひまわりの家の利用者も少しずつ増えてきましたが、介護度の高い方も多くなり、スタッフ体制が追いつかなくなるなど問題を抱えています。

ふれあいサロン、毎週木曜日に食事ををして楽しんできましたが、ボランティアの高齢化、後継者がいなく現在休止しています。

ふれあいサロンは「ひまわりの家」の原点であり10年あまりつづけてきました。何とか復活できるように検討しています。

遠地昭典

ふれあいサロン ☆ デイサービス ☆ ボランティア 募集

赤ちゃんからお年寄りまで一つの屋根の下で過ごす居場所です。

あなたも一緒に過ごしませんか。 気楽にご連絡ください。

お話し相手、利用者とお散歩に、入居者の夕食配膳のお手伝い、

犬(シェリー)の散歩、庭の花や植木の手入れ、水やり等々

(連絡先) (Tel) 6474-8788 (FAX) 6474-8796



デイサービスひまわりの家はこんなところ

木の温もりと太陽の光がいっぱい入るデイルーム。家庭的なスイートホー
ーの雰囲気を大切に。そんな願いを込め定員10名のゆったりと過ごし
ていただけるデイサービスです。

小規模さを生かして、その人らしい日常生活にあわせた生活をつくります。



またハイキング、お花見、夏祭りなどの楽しい行事も・・・

お気軽にご連絡ください。

共生ホームをつくり育てる会第7回総会のご案内

共生ホームひまわりの家も4回目のお正月を迎えます。

3年間の活動を総括してこれからの展望を語り合い、共生ホームの運動を大きくひろげていきましょう。

下記のとおり第7回総会を開催しますので、ぜひご参加ください。

日 時 2014年1月18日(土) 午前11時より

場 所 共生ホームひまわりの家

第1部 総会 (AM11:00 ~ 12:30)

あいさつ 活動報告、事業報告、質疑討論

活動方針(2013年度) 新しい役員、事務局体制について

第2部 懇親会(新年会) (PM1:00 ~)

鍋料理を囲んで新しい年を迎え、展望を語り合しましょう

平岡八重子さん・天寿を全うされました

往診の手配をして、家族に連絡をとっているうちに呼びかけにも応じられなくなり脈もとれなくなってきたように息を引きました。平岡さんらしい大往生でした。その日のうちにデイサービスの方々とお別れをして斎場に向かわれ、家族だけのお葬式をされました。



平岡八重子さんが11月16日なくなりました。昨日の夕食まで普通だった食事をされ、16日の朝はいつも通りおはようとの呼びかけにも応じていました。食事を始める頃意識がもうろうとなつてベッドに移りました。



第3回ひまわりのまつりに出演していただいたフラダンスの皆さんがデイサービスにきていただきました。



緊急の募金、出資金の訴え

平成25年8月25日(日)午前10時過ぎ、地域「ゲリラ豪雨」に見舞われました。雨が降り始めるとバケツをひっくり返したような豪雨になり、10〜15分の間に排水能を超えた雨が玄関前を川のように流れ、玄から大量に流れ込みました。庭からも流れ込み、階のデイルーム、地域流ルームは冠水、玄関からの水は横のエレベーターに流れ込み、地下にあるモーター等を浸し、エレベーターが動かなくなりました。管理会社に来てもらって点検した結果回復能、全面的に部品等を交換しなければならなくなり、部品もこれから生産しなければならぬものがあり、回復には20日かかることがわかりました。2、3階の入居者には20日間部屋に缶詰にご迷惑をかけました。9月20日にようやく回復しました。改修工事に200万円かかりました。ひまわりの家の経営は日常経費は赤字を出すにききましたが、このような緊急出費や返金に当てる余裕がありません。この度緊急の「募金」「出資金」を訴えることになりました。ご協力をお願いします。

ひまわりの家の人と顔

中森昌江さん(98才)



大正4年12月7日尼崎市で生れ、小学校1年の時、大阪の佃に移り住みました。子どもの頃は今のひまわりの家の近くに住んでいたそうです。

ひまわりの家の庭に赤い実のなる大きな木がありますが、中森さんが子どもの頃からあったそうです。樹齢百年になるかも…ひまわりの家のある佃二丁目には田畑が多くあり、田養神社は昔、狐や狸の住む「田養の森」だったそうです。女学校を卒業して路線バスの車掌さんになり、切符を切つて、停留所の案内、バスが完全止まる前に飛び降りて乗客の誘導を、制服がセーラ服で女学生と間違われたようです。23才で結婚して岡山へ引っ越し、後樂園の近くに住んでいました。ご主人が戦死、その後再婚して佃に帰ってきました。それからずっと佃で暮らしています。ひまわりの家には開所時から入所しています。

ボランティア 岡川史佳

中森昌江さん青春時代の写真です



合同会社ひまわりの家を設立して4年になりました。9月末が決算期、第5期決算報告書が税理士事務所より送られてきました。赤字体質からは脱却しつつあるようですが、営利会社として利益を上げるまでにはいきません。過剰な利益は当初から求めていませんが、ある程度の利益を上げなければ会社として存続できません。スタッフの給料を確保するために四苦八苦、零細企業の社長の苦労が身にします。会社を支えてくれるのはスタッフです。共生ホームひまわりの家の理念を理解し共鳴して、ともに闘ってくれるスタッフを切実に求めています。



窓